

M. H. 英語英文学科・2 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私は、高校生の時に、約 1～2 週間ほどの留学プログラム利用してフィリピンのセブ島、オーストラリアなど何度か語学留学を経験しました。それぞれの留学経験が短期間であったこと、自分の英語力に自信がなかったこと、現地の大学で英語を使って学びたいと思い、協定留学を目指しました。先輩方の留学体験記を読んだり、話を聞かせてもらったりなど、自分に合った留学プログラム、留学先はどこだろうと考えました。また、私は負けず嫌いで、私の周りに留学を目指している友達が多く、情報交換や、お互いにモチベーションを高め合ったことも、1 つのきっかけであったと思います。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

私は、国際課が夏休みに主催する TOEFL Camp や、IELTS 試験対策セミナーに参加しました。Speaking, Writing が苦手だったので、セミナーなどに参加した時のノートを何回も見直し、試験対策の本にある解答をそのまま写して言い回しや、説得力のある文の作り方を勉強しました。また、時間内に全ての問題を解けるように、試験の 3 週間ほど前から時間を実際に計りながら勉強しました。アプリを使って、日本語の勉強をしている外国の方に essay を見てもらったり、Speaking の練習をしてもらったりもしました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

語学勉強の面では、ECC に通っていたので、普段の授業に加えて英語の勉強をしていました。ビザの手続きでは、早めに申請をし、授業間の空いた時間に面接に行きました。お金を払ったことを証明する印刷物など、事前に印刷して持参しないといけないものが多く、ちゃんと提出物が揃っているのか確認すべきことが多かったです。写真でも、影が入っていたりすると取り直しになるので注意が必要です。予防注射では、すでに受けていたものばかりだったので、追加で注射することもなかったです。

④ 現地到着後

空港からは、Millikin からのシャトルバスで移動しました、シャトルバスが予定の 1 時間以上遅れ、長時間フライトに加えての待ち時間だったのですごく疲れました。また、空港から 3～4 時間かかるので、寮に着いたときには日付が変わっていました。次の日から、オリエンテーション期間が 1 週間続き、留学生 1 人 1 人に FYEM という現地学生が付いてくれるので一緒に過ごしました。また、留学生が入寮した 3、4 日後に新入生が入学されたので、留学生と新入生と一緒に Millikin での生活、授業で気をつけなければいけないことなどの

話を聞くことができました。時間がある時には、留学生たちで、バレーボールをしたり、寮にあるプールで遊んだりしていました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

ESL の教室はキャンパス内にあり、他の教室とはあまり変わらなかったです。Writing の授業では、パソコンが置いてある教室を使っていたので、自分のパソコンでなく、教室のパソコンを使っている学生もいました。

◆ 授業内容、課題、試験

・ LC 101 College Speaking and Listening

名前は、Speaking と Writing ですが、文法の勉強を主にしました。基本的な文法ではなく、留学生に間違いが多い文法を教科書を使って勉強をしました。5～6 回ほど文法テストがありました。Presentation もありました。宿題は YouTube で 10 分ほどの動画を見て、内容を要約、感想、知らない単語、その意味をレポートにし提出していました。また、教育の授業を履修している学生の方とペアを組んで、アメリカと日本の教育の違いをプレゼンテーションしました。

・ LC 103 College Reading

3 冊の本を 1 学期間の間に読みました。それに加えて、授業外で自分で選んで読んだ本を、パワーポイント(本の名前、作者、賞、要約、自分の経験と重なるところ、その本を読んで欲しい人など)を使ってプレゼンテーションを 2 回行いました。また、1 時間ほど離れた市にある小学校に行き、小学校 2 年生くらいの生徒たちに、自分の国の紹介(ホリデイについて)をボードを使ってしました。

・ LC 095 Intermediate Writing

もともと、1 つ上のクラスの College Writing を履修する予定でしたが、人数が少なかったので College Writing と Intermediate Writing の合同クラスになりました。主に、アメリカンスタイルの essay の書き方、Reference など Writing の基礎を勉強しました。毎週 essay の提出があり、なかなかアイデアが思いつかなくてすごく時間がかかりました。春学期は LC105 の College Writing を履修しました。秋学期にしたことの応用や、アメリカンスタイルの履歴書、ブログの作成をしました。

・ LC 207 American Studies

このクラスでは、アメリカ人が大切にしていること、銃社会についてなど、主にアメリカという“国”について学びました。履修している留学生が多く、賑やかでとても楽しかったです。毎回、ビデオを見てその感想、アメリカ人に質問をするという宿題がありました。

正規科目では、授業内での発表や、アメリカスタイルのレポート提出、教科書 10 ページ以上を予習として読むなど、今まで日本で受けてきた授業とは異なるので、慣れるための練習として受けました。課題はそれほど多くはないですが、レポート(essay)や読書など、何かしら毎回ありました。ELC のクラスは試験週間の 1 週間前に授業が終わりました。Final paper や Final presentation が試験でした。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

私が履修したクラスのほとんどが 20 人前後の少人数クラスでした。人数も少ないので、発表や、先生に質問などしやすかったです。図書館がメインの建物の中にあり、静かで居心地が良く、朝 7 時～夜の 10 時まで開いていたので、勉強しやすかったです。大学と寮がすごく近かったです。しかし、貨物列車がよく通っており、夜中でも関係なくすごい音で警笛を鳴らしながら走ったり、踏切の遮断機が下りると 10 分以上上がらない事もありました。

◆ 履修科目

◆ 授業、レポート、定期試験

秋学期も春学期も、履修科目を決定する前に、アドバイザーの先生と相談するために設けられた休みがあり、その日に先生と次の学期に履修する科目など話し合いをしました。アメリカに着く前に既に、在校生の方達が履修登録を終らせていたので、私が希望していた科目は、ほとんど取れなかったもので、ESL の授業をたくさん履修しました。

・ CO 101 Introduction to Communication Theory

この授業では、主にコミュニケーションとは何か、どのようにコミュニケーションを取るのかを学びました。週に 2 日授業があり、そのうちの 1 日に小テストがありました。また、教科書を予習として読み、その章の内容や自分の経験を合わせてその章を紹介するというプレゼンテーションもありました。期末試験はなく、レポートの提出がありました。

・ SP 103 Beginning Spanish

初心者向けのスペイン語のクラスでした。3 分以上のプレゼンテーションが 2 回あり、3 回筆記テストがありました。留学生は私 1 人でしたが、他の学生も初心者なのでみんなで助け合いながらテスト勉強をしたり、先生もノリの良い方だったので楽しく気軽に受けられました。

・ SP 114 Continuing Spanish

春学期にこのクラスを受けました。Beginning での応用、教科書に沿って授業をしました。主に、他の学生の方と 4 人 1 組のグループになって、問題を解いていきました。チャプターごと(2 週間)に小テストがありました。2 回 5 分以上のプレゼンテーションがありました。

期末試験はなく、最後のテストもチャプターテストでした。

・ **ED 238 Language and Development and Linguistics**

この授業では、子供がどのように、言語(第 1、2 言語)を習得するのかを学ぶ授業でした。オンライン授業になってからは主に、母国語が違う学生とどのように接してあげるべきなのか、先生ができることは何かを学びました。レポートを毎回提出する前に、自分がレポートに書いたことや学んだことをプレゼンテーションする機会がありました。定期試験はなく、レポート提出でした。

・ **CO432 Intercultural Communication**

他の文化の人たちとどのようにコミュニケーションを取れば良いのか、各文化におけるコミュニケーションの特徴は何かなどを学びました。クラスの現地学生とグループになり、お互いの文化を紹介し合ったり、一緒にご飯を食べるなどの予定がありましたが、オンライン授業になり、相手の文化について質問をし、それをレポートにし提出する形になりました。テストは、中間テストがありました。期末試験は受けたい人は受けられる形でしたが、期末の essay は必ず提出しなければなりませんでした。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

クラブ活動はしていませんでした。毎週木曜日の放課後に Afterschool Program という活動に参加しました。現地の小学校(International School)に行き、宿題の手伝い、外で一緒に遊んだりしました。また、小学生が様々な文化に触れることができるように、参加していた留学生の文化を紹介、Food Festival などもしました。

⑧ **現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について**

The Woods という寮に住んでいました。12 棟ほどあり、各部屋に 4 つ(A,B,C,D)の部屋、キッチン、バスルーム(各部屋 2 つ)、リビングがありました。キッチン、リビングはルームメイト 4 人共同で使い、バスルームなどは 2 人に 1 つ(AB/CD)で使用していました。リビングにはテレビ・ソファ・椅子が、キッチンには冷蔵庫・電子レンジが事前に設備されていました。ミールプランは必ず取らないといけなかったのですが、私は授業の合間時間に余裕があったので 1 番少ない(25 食)ものを選び、基本的には自炊するようにしていました。通学時間は 10 分もかからないくらいですが、貨物列車が通ると、長い時間待たないといけないので注意した方が良いです。

⑨ **長期休暇の過ごし方**

秋休みは、カナダに行きました。Thanksgiving の休みは、教授の家に泊まりに行き、その後シカゴに行きました。冬休みはアーカンソー州にいる、いとこの家にお世話になりました。

年末年始は、ニューヨークに行きました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

特にしていません。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学生で集まってお互いの国の料理を作って食べたり、同女から Millikin に一緒に行った 3 人で集まってご飯を食べたり、一緒に勉強をしたりしたのがとても印象強く残っています。授業も、毎回全然苦でなく、ディスカッションで他の留学生やクラスメイトと意見交換をしたり、英語でスペイン語の授業を受けたこともすごく良い思い出です。また、留学生には Friendship Family という、留学生 1、2 人につき現地のファミリーと交流できる制度がありました。私はそのファミリーと一緒にスケートに行ったり、ご飯をご馳走になったり、スペイン語を教えてもらったりと本当の家族のように接して下さったことも印象に残っています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

日本食が食べられなかったことです。車で 1 時間離れたところにあるアジアマーケットにも、日本食は少なく、材料を工夫して自分たちで作ったりしていました。大学が田舎にあるので、周りに商業施設が少なく、あっても車がないといけなくらい遠かったりととても不便でした。また、ルームメイトがオーストリアからの留学生で、毎週金土日曜日に、他の留学生とパーティーをし、大音量で音楽を流し、部屋も片付けないという状況がありました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

私は、アジアの国から来た留学生の方たちと仲良くしてもらい、よく一緒に旅行や遊びに行ったりしていました。その時に、寮のフロントで集合していたのですが、遅れたり、寝坊してもあまり気にしないということが多々ありました。私は、時間に余裕を持って行動したいタイプであったのと、アジアの国だから、時間に遅れないだろうという勝手な固定観念を持っていたので、驚きました。また、周りの人のことを気にしないということも文化の違いを感じました。生徒 1 人 1 人がちゃんと自分の意見を持っていて、それを授業中に躊躇なく発言できたり、質問をしたりしているところに習慣の違いを感じました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

クラスが少人数生で、先生との距離が近く、質問もしやすかったです。日本人も少なく、英

語を使う機会が自然と増えました。現地の学生も先生方も、すごくフレンドリーで、毎回すれ違う度に挨拶をしてくれたり、微笑んでくれました。

・悪かった点

大学が田舎にあったので、交通の便が悪くどこへ行くのにもすごく不便でした。車を持っている友達もいましたが、毎回連れてってとは頼めないし…と思い、休日は基本的に家にこもっていたことが多かったです。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

自分のパソコンは絶対に必要です。自分がよく使っているスキンケア用品、常備薬、冬に履くもここの靴下、味噌汁や電子レンジでできる白米などの日本食は持って行って正解だと思いました。ストレスや環境の変化で肌荒れも起こりやすく、体調も崩しやすくなると思います。冬は、本当に寒いです。雪も積もるので、対策ができるものは用意しといた方がいいと思います。肉エキスなどが入っているものは持ち込み禁止ですが、できるだけ多くの日本食を持っていくことをお勧めします。すごく日本食が恋しくなると思います。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

4 技能全てが、向上したと思います。私は、秋学期は基本的に ELC の授業を多く履修していたこともあり、正規科目への土台作りがしっかり出来たように感じます。また、語学力でなく、他の国からの留学生や現地の学生と一緒に生活をしたり、授業を受けたりしていく中で、異文化理解がさらに深まりました。コミュニケーションの授業で、自分の国・文化が一番・当たり前であると思わずに、この人はどうしてこのような行動をするのか、彼らのバックグラウンドやその行動を否定せず受け入れることが大事であるという話を聞きました。その話を聞いてから、他の文化を受け入れ易くなり、それだけではなく、自分の文化、習慣を見直すいい機会にもなりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

IELTS や TOEFL の勉強など難しくて、心が折れそうな時もあると思います。ですが、留学に行きたい！という強い気持ちがあれば、大丈夫だと思います。留学する前も、してからも、楽しいことだけではなく、不安なことや心配事があると思いますが、自分が心配になりすぎているだけで意外とかなったということが多かったです。深く考えすぎずに自分のしたいことに向かって諦めずに頑張ることが大事だと思います。当たり前ですが、それぞれの大学によって、特徴や授業内容などが変わるので、自分が本当にしたいことは何か、留学先大学で何ができるのか、自分自身を見直す事も留学を実現する鍵にもなると思います。諦めずに頑張ってください。応援しています！

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

英語を活かせる、様々な国の人と繋がれるような職業につきたいと思っています。

V. 写真



Millikin University のメインキャンパスの 1 つ Shilling Hall です。



寮の Woods です。



CIE(国際課)で行われた、留学生交流会で撮った写真です。



月に 1 回、CIE(ISO)の活動報告が行われました。

青い Millikin の服は、Millikin が無料で配布してくれたもので、毎週金曜日は Millikin の服を着るという慣習がありました。

K. I. 英語英文学科・2 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私は高校生のころから英語で色々な国や地域の人と話をすることが好きだったため、大学生になったら絶対に留学をしたいと思っていました。長期で行きたい、語学研修ではなく現地の学生と一緒に勉強をしたいという思いがあったため、協定大学留学を目指しました。1 回生の時に TOEFL キャンプに参加した後、本格的に IELTS の勉強を始めました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

国際課主催の留学生との交流会に参加して、留学生の友達をたくさん作りました。それと同時に国際課の方ともお話をする機会が増え、たくさん留学についてのアドバイスをいただきました。留学や IELTS セミナーにも参加し、IELTS の解き方のコツを学んだあとは、私が一番苦手で、ハイスコアを取る鍵となるライティングとスピーキングの練習に力を入れていました。問題集やネットの回答、良い例を書き写してライティングでよく使う便利な表現を覚えたり、声に出して読んだりしてスピーキングで使えるようなフレーズを覚えたりしました。留学の友達に添削をしてもらったり、チャットルームで先生とスピーキングの練習をしたりもしました。リーディングは解くコツさえわかれば解けるため、ほとんど練習しませんでした。いくら単語を覚えてもそれが出題されるとは限らない上に、IELTS には単語帳にも載っていないような難しい単語が出てくるので、リーディングに備えて語彙力を増やすということも全くしませんでした。リスニング対策としては、回答を書く時に頻繁に綴りを間違えていたので、ライティングの練習の時に綴りでミスをしないように気を付けていました。私は 2 回生の秋学期から必ず留学に行きたかったため、ライティングとスピーキングを主として効率よく勉強することに重点を置いて勉強をしましたが、この 2 つは留学中でもとても役に立ちました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

私は一人暮らしをしていたので、残高証明書を入手することや、親のサインが必要な資料を用意することがとてもとても大変でした。郵送の往復の時間を考慮して、早めに用意をしなければいけませんでした。留学前に京都で借りていた部屋を一度引き払ったため、同女の期末試験と同時に引っ越しの準備をし、試験終了後に実家に帰り、アメリカに行く用意をして、すぐに出発だったため、出発前はバタバタしていました。ビザは問題なく取得することができました。語学については、留学決定後から出発までの間にもっと英語を勉強すればよかったと思います。

④ 現地到着後

空港に、大学までのシャトルバスが夕方迎えに来てくれました。寮に着いたのは夜でした。オリエンテーション期間に留学生のお世話をしてくださる FYEM という学生が待っていてくれて、スーツケースを部屋まで運ぶのを手伝ってくれました。その日は寮が布団を貸してくれます。シャンプーやリンスはないため、初日に使う分は持っていくとよいと思います。翌日に日用品を買いにつれて行ってくれます。翌日から早速オリエンテーションが始まり大変でしたが、様々なイベントを通して他の留学生やその留学生の FYEM など友達をたくさん作ることができました。私の FYEM はとても優しく、オリエンテーション期間が終わった後も気にかけてくれたため、初めてのことばかりでも困ることはほとんどありませんでした。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

ESL の授業で使う教室はミリキンの正規授業を受ける建物の中にあります。ESL を取っていた日本人は同女から行った 3 人と、別の大学から来ていた 1 人の計 4 人だけです。ほとんどのクラスが 10 人以下の小規模クラスです。最低 2 つ ESL 授業を履修すればよかったのですが、私は秋学期に 3 教科履修しました。履修教科はアドバイザーの教授と一緒に相談をしながら決めました。

◆ 授業内容、課題、試験

・ LC101 College Speaking & Listening

授業内容は、スピーキングやリスニングというよりは、文法の授業のようでした。しかし、スピーチは 3 回あり、動画を見た後に感想や質問を書くという課題もありました。また、正規の授業を取っている現地の学生とグループになって、お互いの国の教育制度について学んで発表するという機会がありました。

・ LC109 Vocabulary

毎回決められたチャプターを予習して問題を解き、授業内でわからないところを質問することができ、それについて解説をしてくれました。その後は習った単語やイディオムを使ってゲームをしました。教授が毎回工夫をしてくださって、楽しく単語やイディオムを覚えることができました。中間と期末は筆記試験でした。

・ LC207 American Studies

アメリカの文化や社会について学ぶ授業ですが、自分たちの国についてシェアする機会もたくさんありました。課題の中に、アメリカ人に質問をしてアメリカ人の意見を知るというのがありました。これは実際にアメリカ人の意見を聞くことができる貴重な機会で、ルーム

メイトやアメリカ人の友達と会話をするととても良いきっかけにもなりました。テストはありませんが、アメリカと日本の文化の違いについてのレポートを提出したり、動画を見て感想を書いたり、習ったチャプターに関係のあるニュースのサマリーを書いたりする課題がありました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

キャンパスが小さいので授業の教室移動には困りませんでした。私が受けた授業で最も少なかったのは 14 人、多くて約 30 人でした。

◆ 履修科目

・ CO101 Intro to Communication Theory

秋学期に履修しました。様々なセオリーを通してコミュニケーションについて学びました。毎回授業前にその日に取り扱うセオリーについてのクイズがあり、予習をするのがとても大変でした。配布されたプリントも埋めて、毎回授業後に提出しなければいけませんでした。教授はほとんど板書をしないため、教授が言ったことを注意深く聞いてメモを取る必要がありました。期末には、ペーパーを提出しました。

・ ED209 Foundations of Bilingual Education

秋学期に履修しました。バイリンガル教育の正しい方法、歴史、現状について学びました。教授ばかりが話すのではなく、グループで話し合ったり発表したりする時間が多かったです。実際にバイリンガル教育を行っている小学校に見学にも行きました。期末には、12 枚のペーパーを提出しました。

・ CO200 Public Speaking

春学期に履修しました。スピーチを効果的にできるようになるための授業です。チャプターごとにクイズがありました。プレゼンのお題は学んだプレゼン方法に適していれば、自分で自由に決めることができました。個人でのプレゼンだけでなく、グループプレゼンテーションもありました。

・ CO 432 Intercultural Communication

春学期に履修しました。様々な国や地域、文化の例を用いて異文化間コミュニケーションについて学びました。中間テストは四択問題と記述問題がありました。留学生とグループになってお互いの文化について学ぶプロジェクトもありました。

・ SO 313 Multiculturalism & Diversity

春学期に履修しました。多文化主義や多様性について学ぶ授業でした。教授はペルー人で、教授の経験談をたくさん話してくれました。日本人としてどう思うか、留学生としてどう思

うかを発言する機会をくださいました。中間テストは四択問題と記述問題がありました。期末はレポート提出でした。

・ **ED238 Lang Development & Linguistics**

春学期に履修しました。言語をどのように習得して、どのように発展させていくかを学ぶ授業です。グループで話し合ったり、例を出し合ったりしながら学ぶことが多かったです。プロジェクトやそれについてのプレゼンは大変ですが、チャプターごとにあるクイズはしっかり準備をしておけばそれほど難しくありません。

・ **EN322 Major English Authors II**

春学期に履修しました。イギリス文学を読み、理解する授業です。週に 3 回ある授業でした。一週間で何百ページもある作品について学び、次の週には次の作品について学ぶため、毎回予習が大変でした。意見を求められることがあるため、あらすじを読むだけでは授業についていけません。しかし、教授は優しく授業内容はとても分かりやすかったです。テストやクイズはなく、5 枚のペーパー提出が何度かありました。

◆ **授業、レポート、定期試験**

授業は、講義を聞くのが中心の日本とは違い、学生が授業に積極的に参加している印象を受けました。秋学期は、正規授業についていくために必死でした。慣れると余裕が出てきましたが、それでもやはり期末期間はテスト勉強やレポートを書くのがとても大変でした。春学期は正規授業のみを履修したため、さらに課題の量が増えました。予習に加え、ほとんど毎日課題を提出したりプレゼンをしたり、クイズを受けたりしていました。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

毎週木曜日に行われているアフタースクールプログラムに参加していました。大学の近くの小学校で勉強している ESL の生徒達と一緒に遊んだり、私達留学生の国の文化を紹介したりしました。日本のことに興味を示してくれるのはとても嬉しかったです。

⑧ **現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について**

私は、The Woods という寮にアメリカ人 3 人と住んでいました。The Woods は 4 人部屋なのですが、そのうち 2 人の彼氏が頻繁に私達の部屋に来ていたので、6 人で暮らしているような状態でした。しかし、1 人 1 人に個室があり、全く騒いだりするルームメイトではなく、友達を部屋に呼ぶ際は事前に知らせてくれたので問題なく過ごせました。寮の中にはパソコンルームやジムもあります。ミールプランは 50 食を選びました。前年度の先輩方から食堂のご飯はおいしくない聞いていたのですが、改善したようで、思っていたよりはひどくありませんでした。しかし、ピザやチキンなど重めの食事を毎日食べたいとは思わなかったため、お昼に時間がある際は一度寮に戻って自炊をして、ルームメイトと一緒に食べていま

した。夜も友達と集まって一緒に作って食べたりしていました。通学時間は徒歩で約 7 分です。貨物列車が通ると長い時は 5 分以上待たなければいけなかったのが、少し遠回りして行っていました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

秋休みは台湾人の友達とカナダへ行きました。サンクスギビング休暇の際は、フレンドシップファミリーの家に招待をしていただき、一緒にご飯を食べたりゲームをしたりしました。私の友達のフレンドシップファミリーは大学の周りに住んでいる家族だったのですが、私のファミリーは私が授業を取っている教授の家族でした。とても心強く、すぐに打ち解けることができました。最も長い冬休み期間は、日本人や韓国人、台湾人の友達とフロリダ、ボストン、ニューヨーク、ワシントン D.C.に行ってきました。タイムズスクエアで年越しをしたのが一番の思い出です。また、シカゴで行われたコンサートに 1 人で行き、8 人部屋のゲストハウスに泊まりました。最初は 1 人で行くことや知らない人と泊まるのが不安でしたが、とても楽しく、貴重な経験になりました。春休みは、韓国人、台湾人、スペイン人の友達とカリフォルニアやグランドキャニオンに行ってきました。夜行バスを使ったり、機内泊をしたり、お金をかけずにたくさんの場所に行けるように工夫をしました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

特にしていません。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことは数えきれないくらいたくさんあります。楽しかったことがたくさんあるのは、仲良くなった友達や教授のおかげだと思います。課題がたくさんあっても、友達と話をしたり、一緒にご飯を食べたりすると大変でも頑張ろうと思えました。私は日本で一人暮らしをしていたため、寮で生活をするということもとても楽しかったです。朝起きたら誰かがいたり、学校から帰ってきたら誰かがいたり、一緒にご飯を食べるのはとても楽しかったです。ルームメイト以外でも、寮に住んでいる友達とすぐに会えるのは嬉しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

オンライン授業を日本で受けたことが最も苦勞したことでした。私はコロナウイルスがアメリカで流行し始めたため、3 月 23 日に早期帰国しました。23 日から大学の授業がオンラインに移行されたため、授業やプレゼン、試験をオンラインで受けました。移行後、通常の時間にシラバス通りに授業を進める教授や、オンライン授業をせずに課題提出を増やした教授もありました。アメリカで授業を受けていた時の課題の量でも多いと感じていたのが、それ

以上の量をこなすのはとても大変でした。課題の量と同じく大変だったのが時差です。授業をいつでも見るができるようにしてくださった教授もいましたが、現地時間に合わせて授業に参加したり、グループプレゼンテーションのための話し合いをしたりしなければいけなかったため、夜中に起きなければいけないことが多々ありました。また、アメリカで初めて授業を受けたときに、教授や先生が何を言っているのかわからなかった時もとても辛かったです。しかし、その時はすぐに質問をできて周りの人たちが助けてくれて何とか乗り越えることができました。オンラインではそれができないため、最後まで苦しみながら受けていました。日本語でもオンライン授業を受けたり、オンラインでプレゼンをしたりしたことがなかったのでとても大変でした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

初めて授業を受けたとき、皆が積極的に発言をしているのを見て驚きました。皆熱心に授業を聞いて勉強していました。調べたらすぐにわかりそうな簡単な質問でも、間違った回答でも教授はそれを否定せずに、優しく説明してくれるので学生も質問をしたり意見を言ったりしやすいのだと思いました。教授と学生の距離がとても近く、オフィスアワー外でも優しく対応してくれます。また、時々、音楽を爆音で聞いたり、学校に部屋着のような楽な服装で行ったりするような学生がいました。彼らは全く人目を気にしていないようでした。最初は驚きましたが、本当にアメリカ人はいい意味で他人のことをあまり気にしていないので、自分が何かをするとき周りの目を必要以上に気にする必要はないのが良いなと思いました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

・良かった点

たくさんありますが、一番は、大学が小規模である点です。学生数が少なく、とてもアットホームな雰囲気があります。1つの授業は大体20人前後で開講されているため、すぐにクラスメイトの顔や名前を覚えることができます。また、キャンパスが大きいので教室を移動しているときや、食堂でいつも友達に会うことができます。最初は、現地の学生と留学生との間に壁があるように感じていました。しかし、図書館や寮でわからないことがあると優しく教えてくれる学生ばかりでした。私が留学生だとわかると丁寧に対応してくれたり、英語が下手でも無視をせずにちゃんと聞き取ろうとしてくれました。フィールドトリップ、サンクスギビングディナーやクリスマスパーティーなどのイベントがあったのもとても楽しかったです。

・悪かった点

悪かった点は 1 つだけです。大学の周りに何もないことです。とても田舎でスーパーに行くにも車で約 15 分かかります。大学の周りには公共交通機関がほとんどありません。ミリキンの国際課が 2 週間に 1 回スーパーまでのシャトルバスを出してくれますが、自分が行きたいときにすぐ行けないのでとても不便です。近くのアジアンマーケットまでも車で約 1 時間かかります。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

ほとんどの課題でパソコンが必要なため、パソコンは必須です。日本の調味料、薬、生理用品、洗濯ネット、歯ブラシは日本から持って行った方がよいと思います。日本料理は簡単に手に入れることができず、もしあってもとても高いです。日本のお菓子や小物を持っていると話のきっかけになり、お土産にも良いと思いました。クレジットカードは最低でも 2 枚持って行った方がよいと思います。私は留学中に使用できる金額に上限のないクレジットカードが不正利用されたため、そのカードが使用できなくなりました。私は 2 枚カードを持って行っていましたが、やはり 1 枚だと金額に上限がある場合は特に不便です。種類によって支払いができないカードなども時々あるので、2 枚あると安心だと思います。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学中に、積極的に行動することができるようになったと思います。留学前は、英語で完璧に話さなければいけない、完璧に文章を書かなければいけない、と思い失敗することを恐れ、自分から行動することを躊躇っていました。しかし、アメリカに行く勉強はもちろん、日常生活を送る中でも自分だけでは解決できないことがたくさんあります。そのため、自分からわからないことを質問したり、友達を作るために話しかけたりすることができるようになったと思います。多文化に対する理解も深まったと思います。留学生はもちろん、現地の学生と言っても、アメリカは多文化社会で、様々なバックグラウンドを持った人がいます。授業や教授からではなく、自分の友達から普段の生活の中で様々なことを学べ、視野が広がりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学に行こうか迷っている方は、ぜひ留学、協定留学に挑戦してみてください。日本の大学生として日本で過ごしている私たちにとって、現地の学生と英語で学ぶことができるのはとても貴重な機会だと思います。不安なことがたくさんあるかもしれませんが、それを乗り越えることができれば楽しく、一生の思い出になるような経験をすることができるはずです。諦めずに頑張ってください！そして、留学生生活を全力で楽しんでください！

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

就きたい職はまだ具体的には決まっていますが、留学での経験を活かしたいと思います。

V. 写真



ルームメイトがクリスマスの時に 6 人分買ってきてくれて飾っていました。クリスマスツリーも実家から持ってきてくれて、寮でクリスマスの雰囲気を楽しむことができました。



台湾の友達の誕生日会の時に撮った写真です。誰かの誕生日にはこのように部屋に集まってみんなで祝いをしました。

T. M. 英語英文学科・2 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

高校生の頃に行った語学研修で他の国の人たちとコミュニケーションを取ることの楽しさを知り、より長い期間で留学したいと思い、大学では協定留学に参加しました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

英語の学習法としては、国際課主催のネイティブの先生と話すことができるものに積極的に参加しました。後は、英語に慣れるためにひたすら YouTube など英語の動画を見ていました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

出発までの準備期間はビザ申請や予防接種をしていました。

④ 現地到着後

現地到着後は送迎のバスが来るまでかなり時間があつたので、空港直結のホテルの部屋をデイクスで借りました。それから、ミリキンのバスで他の留学生たちと一緒に寮に向かいました。2 日目からオリエンテーションが始まります。一人ひとりに現地の大学生が世話係として付いてくれるので、質問などはその人に聞いていました。また、他の留学生や大学生とコミュニケーションを取る機会が沢山ありました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

◆ 授業内容、課題、試験

なし

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

ミリキン大学はそこまで大きくないですが、建物数が多いため、初めの方は迷子になりそうでした。早めに建物の名前と場所を把握しておいた方がいいです。図書館やカフェテリアなどでは自主勉強ができます。授業内容は取る授業によりますが、同女では受けられない様々な講義などがあります。大体の授業で週 1 のペースでミニテストがあり、課題もしっかりあります。試験自体はそこまで難しくなく、普段から講義をしっかり聞いていれば大丈夫です。履修科目の決め方は、ミリキン大学で私たちをサポートしてくれる先生と一緒に決めました。まず、自分が何に興味があるのか、英語力はどのくらいかなどを話し合い決めていきます。秋学期はその先生が代わりに履修登録を行なってくれますが、春学期は自分たちです。

のでやり方を覚えておく必要があります。

◆ **履修科目**

◆ **授業、レポート、定期試験**

・ **College Speaking & Listening**

この授業は主に文法を学びます。4 回ほど発表する機会があります。

・ **College Vocabulary**

これは取って良かったと思います。楽しくゲームなどしながら、単語を覚えていきます。

・ **College Reading**

沢山英語の本を読みます。自分の意見が求められるので、話す練習になります。

・ **Introduction to Communication**

ひたすら先生の話しをメモします。たまに発表します。週 2 で小テストあり。

・ **Foundation of Bilingual**

課題が多いです。グループで発表があります。課外授業で小学校に行き、バイリンガルの子供達と触れ合います。

・ **Art Discourses in Media**

先生の話を聞きます。隣の人と意見交換します。試験は、アートについて自分が感じたことなどをまとめます。

・ **College Writing**

普通にライティングの授業です。先生がいい人です。

・ **American Studies**

アメリカについて学び、自分たちの国と比較する。意見が求められるので自分の国について学んでおくといいです。

・ **College Algebra**

数学の授業です。週 1 で小テストあり。比較的簡単です。

・ **Theater Practicum**

裁縫、小物作り、塗装、裏方など様々なことに参加できます。私はステージで使われるセットの塗装をしました。みんなで協力して 1 つの作品を作り上げる楽しさがあります。

・ **Jazz Dance**

運動不足だったので履修しました。ほとんどストレッチみたいなもので楽しかったです。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

ボランティア活動としては週 1 であるアフタースクールプログラムに参加していました。

近くの小学校へ行き、自分たちの国について紹介したり、ご飯を作ったり、とても楽しい時

間が過ごせます。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

寮では、4 人で暮らしていて、各人に部屋があります。キッチンやトイレ、シャワーは共同で使います。食事はミールと自炊をしていました。2 週間に 1 回のペースで大学が連れて行ってくれるスーパーで 2 週間分の食事を買っていました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

長期休暇は旅行に行きました。留学生の友達とサンフランシスコやオーランドに行ったりしていました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

特にしていません。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

長期休暇を使つての旅行が一番楽しかったです。同じ国なのに、州を跨ぐとまた全然違った感じがして、毎回新鮮な気持ちになります。また、そこで出会う人たちと会話をする時間がとても貴重な時間だと感じました。どこから来たの？とか話しかけてくれて、そこから日本の話をしたり、逆にアメリカについて聞いたりと色々なことを知ることができます。アメリカからみた日本についての話はとても興味深いものでした。一番思い出に残っているのは、NY での新年カウントダウンに参加したことです。今まで大きな新年イベントに参加したことがなかったので、新鮮でした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

留学中辛かったことは意思疎通ができないことです。初めの方は全然英語を話すことができず、会話についていくことができませんでした。大体何を話しているかは聞き取れるのに自分の意見を上手く言えなくて、とてももどかしい思いをしました。オリエンテーション期間中の、現地の大学生とのゲームの時間が苦痛でした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

授業態度が日本の大学とは全く異なると感じました。日本のようにずっと座って話を聞くだけの授業は少なく、学生みんなが積極的に参加しています。また、先生との距離感も近く、友達のように接していました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

留学生のためのイベントが数多くあり、他の人たちと触れ合う機会が多いこと。普段の授業ではあまり現地の大学生と話す機会がないので、イベントとかに参加できるのはいいチャンスだと思います。悪かった点は、田舎すぎて、周りに何もないこと。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは持参しました。出汁系の調味料、スポンジ、菜箸、お箸、排水溝のシール、一日分のシャンプー、リンス、ボディソープ（初日のお風呂に入るため）、圧縮袋。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力はもちろん向上したと感じますが、それ以上に自信ができました。英語を話している人を見かけると自分から声をかけて、話したりできるようになりました。留学前は失敗することを恐れて、困っている外国人を見ても話しかけることができませんでした。今は積極的に話しかけることができます。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

初めは上手く話せなくて当たり前なので、悔しいと思ったその感情を忘れずに留学頑張ってください。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

まだ決めてないのですが、英語を使い他国とつながることができる仕事をしたいと思っています。

V. 写真



半年で帰ってしまう友達とのお別れ会です。みんなとても仲が良くて、離れるのが寂しく、この時は泣きながら手紙を読んでいた。いい友達がたくさんできました。



クリスマスが近く、サンタさんと写真が撮れるということで、歩いて 30 分かけて写真を撮りに行きました。



NYでのカウントダウンです。そこで知り合った方達と写真を撮りました。



これも最高の思い出です。ブロードウェイのオペラ座の怪人を見に行きました。たまたま一番前の席のど真ん中で見ることができ、一生忘れられない思い出です。